

2026年4月10日

特定非営利活動法人 国際支援活動協会  
理事長 土井田 美恵子 様

## 御 礼

拝啓

陽春の候、国際支援活動協会の皆様方におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。貴協会の会員の皆様が、福祉・医療分野をはじめとする地域貢献事業に尽力され、支援の輪を広げておられるご活動には、心より敬服いたしております。

当園に対しましては、長年にわたり多大なるご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。皆様からの温かいご厚情、ならびにウイズ株式会社のエージェントの皆様の連年のご支援につきましては、当園の役員、職員、保護者はもとより、子どもたち一同、感謝いたしております。

さて、当園はかねてより進めておりました子どもたちの新園舎(生活棟)が、昨年度末に無事竣工・引き渡しを終えましたことをご報告させていただきます。新しい生活棟は、刺激が過多になる大集団での生活から、子どもたちが相互に影響を及ぼし合うことが抑えられる、刺激が統制される生活環境で安心して過ごせるよう、全6ユニットからなるユニット形式を採用いたしました。2階建ての造りで、上下階に3ユニットずつ配置されております。各ユニットにはリビングを中心に6つの個室を備え、職員の目が行き届く形式を採用し、更にはプライバシーにも配慮した設計となっております。

今回の新生活棟の稼働にあたり、貴協会からの貴重なご寄付を活用させていただき、子どもたちの生活に欠かせない以下の備品を整備・購入させていただきました。

- 各ユニット内のリビングへのテレビの設置
- 各ユニットへの除湿機の設置
- 各洗濯場への洗濯機の設置

真新しい家電に囲まれ、子どもたちは新しい生活への喜びを感じております。安心・安全な環境の中で、日常の潤いを感じながら過ごせるのは、ひとえに皆様のご支援のおかげです。

本来であれば、設置後速やかに写真と共に御礼を申し上げるべきところでしたが、昨年度末に建物が引き渡しされ、その直後の家電等の搬入・生活の移動が重なり、写真撮影や報告の準備に時間を要してしまいました。こうしたことによりご報告が大幅に遅れましたこと、深くお詫び申し上げます。

現在、当園に入所する子どもたちの多くは虐待体験や発達の課題を抱え、非常に高いケアニーズを持っております。家庭環境が脆弱な中、東京や埼玉、神奈川、広島など県外から措置される児童も急増しております。私たちは「子どもの幸せを応援する」というスローガンのもと、新しい生活棟というハード面と、専門的な治療・教育というソフト面の両輪で、これからも子どもたちの育つ権利を保障していく所存です。

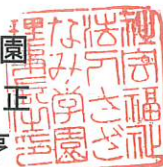
最後になりますが、貴協会ならびにエージェントの皆様の今後ますますのご発展を祈念いたしますとともに、略儀ながら書中をもちまして厚く御礼申し上げます。

敬具

社会福祉法人 さざなみ学園

理事長 山添 正

園長 辻 亨



1F 男子自立ユニット  
2F 女子自立ユニット

新生活棟



調理室



学園の農園

<施設名> さざなみ学園      <運営法人> さざなみ学園  
<開設日> 1963年4月1日  
<定員> 入所21名(令和7年度暫定定員24名)  
<所在地> 滋賀県彦根市鳥居本町1586  
<電話> 0749-22-2523      <FAX> 0749-22-2563  
<Email> mail@sazanamigakuen.org  
<HPアドレス> https://sazanamigakuen.org

### 【はじめに:歴史的背景と設立の理念】

さざなみ学園(以下;当園)は1963年、滋賀県彦根市の地に定員60名の「虚弱児施設」として産声を上げました。設立当時、終戦から17年が経過していましたが、戦後から続く児童を取り巻く劣悪な環境は依然として深刻な社会課題でした。特に身寄りのない児童や、身体の弱い子どもたちが適切なケアを受けられずに放置されている状況に対し、国を挙げて養護施設や虚弱児施設の整備が進められました。そうした中、当時の彦根市長であった井伊直愛氏(江戸幕府大老井伊直弼公の曾孫)が「滋賀県唯一の虚弱児施設を彦根に」と尽力され、当園が誕生しました。

開園当初は、小児喘息、心臓疾患、ネフローゼ、栄養不良といった身体的脆弱性を抱える子どもたちの「転地療養」と「療育」の場として機能し、施設内学級での教育と集団療養生活を軸に運営して参りました。

### 【時代の変遷とニーズの変化・施設種別の変更:情緒障害児短期治療施設へ】

1970年代半ば、高度経済成長による食生活の向上と医学の進歩により、身体的疾患を主訴とする児童は激減しました。代わって社会問題となったのが「不登校」の急増です。当園はこの変化に対応すべく、心理的脆弱性を抱える子どもたちの支援へと舵を切りました。

そうした中、1997年に当時の厚生省による福祉施策の抜本的見直しに伴い、施設種別を「情緒障害児短期治療施設」へ変更し全国では17番目の情緒障害児短期治療施設として仲間

入りをしました。その後、さらに現代社会の深刻な課題となっている「児童虐待」を受けた子どもたちの治療へと、その役割は重要性を増していきました。2017年には現在の名称である「児童心理治療施設」へと改称され、小学1年生から高校3年生まで、被虐待や発達上の課題を抱える子どもたちの入所治療を担っています。

教育面では、県立特別支援学校本校(滋賀県立鳥居本養護学校)との協力体制を構築。全国でもトップクラスの手厚い教員配置を実現し、子どもたちの学びを支えています。入所児童の総てが先ずは、鳥居本養護学校で教育を受け、子どもたちの希望と治療の進度により地域の学校へ通学、及び進学ができるシステムを構築しています。

### 【生活環境の再構築:刺激の統制と安心の保障】

1993年に竣工した現在の園舎は、当時の「虚弱児施設」としての基準に基づいた「大舎制(集団生活型)」の建物です。しかし、近年の入所児童は、深刻な虐待によるトラウマや精神科医療を必要とする高いケアニーズ、他者からの刺激に対する過敏さを抱えています。大きな集団生活の中では、一人の児童の不安定な様態が全館に波及し、他児のフラッシュバックや連鎖的な混乱を招くリスクを常に抱えています。子どもたちの安心・安全を保障するためには、生活集団を極限まで小さくし、個々の状態に合わせて「刺激を調整できる環境」が不可欠です。

現在進めている再出発の一環としての建設面でのプロジェクトでは、これまでの定員50名

を36名に見直し、1ユニット最大6名の「小規模ユニット化(6ユニット)」を実現します。これにより、刺激を統制し、落ち着いた環境下での治療的支援を可能にします。

### 【老朽化への対応と施設整備の必要性】

築30年を経た現在の園舎は、目に見える劣化だけでなく、壁中や地中に埋設された配管の腐食が深刻化しています。部分的な補修を行っても他箇所でも漏水が発生するなどの悪循環が続いており、特にトイレや風呂、炊事場といった生活基盤の故障は、子どもたちの日常に多大な不自由を強めています。根本的な解決のためには、全面的な建替えが避けられない状況にあります。

### 【個別治療の深化と「愛着の再形成」】

また治療・生活面での再出発としては、これまでの集団療育では、子どもに「我慢」や「待機」を強いる場面が多くありました。ユニット化によるホーム形式の導入は、一人ひとりの生活のリズムや個別の事情に合わせた柔軟な対応を可能にします。例えば、高校進学やアルバイトで帰園が遅くなる児童に対し、これまでは一人で食事を摂らざるを得なかった場面でも、ユニット化により小集団の中で温かな食卓を囲むことが可能になります。入浴時間なども、本人のタイミングを尊重した生活の質の向上につなげることも可能になります。

また、特に虐待を受けた子どもたちの治療において最も重要なのは「愛着の再形成」です。特定の支援者との間でゆったりとした時間と深い信頼関係が築ける環境を整えるため、低年齢児に対応したユニットの設定など、早期治療の開始に向けた設備も整えています。

### 【地域支援の総合センター化に向けて】

当園は、施設内での治療だけにとどまらず、子どもたちの治療と生活を通じて培った専門性を地域に還元する使命を担っていると考えています。8年前より実施しているスクールカウンセラー(SC)の派遣(彦根市内6カ所の小学校)に加

え、これまで培ったアセスメント力(子どもを見立てる力)を活かし、地域の教育・福祉機関に対するスーパーバイザー(SV)としての役割や、地域支援の総合センターとしての機能を強化していく構想を持っています。

### 【結びに:2026年の竣工に向けて】

2026年度、当園(法人)は設立63年目を迎ええました。2025年7月には入所児童代表が参列して地鎮祭を執り行い、11月には同様に子どもたち全員と共に上棟式を行いました。

この度の施設整備は、単なる建物の更新ではなく、子どもたちが過去の傷を癒やし、自分自身を大切に思える感性を育むための「治療的空間」への刷新であると考えています。今後も子どもたちの最善の利益を追求し、“子どもたちの幸せを応援する”という当園のスローガンの下、地域と共に歩む施設であり続けるため、職員は丸となって全力を尽くします。皆様の温かいご理解とご協力、更にはご教示を心よりお願い申し上げます。

### 【移転スケジュール概要】

- 2025年7月:建築工事着工・地鎮祭
- 2025年11月:上棟式
- 2026年3月26日:新生活棟(ユニット形式)引き渡し
- 2026年4月3日:竣工式  
その後、管理棟・心理棟の改築工事(予定)
- 2026年10月:旧児童生活棟解体・外構工事を含む全工事完了(予定)



2025年度 国際支援活動協会様からご寄付をいただいた物品

【テレビ4台】

男女各ユニットのリビングにテレビを設置させていただきました。(計4台)



2025年度 国際支援活動協会様からご寄付をいただいた物品【除湿器・洗濯機】

男女6ユニットに洗濯機と除湿器を購入させていただきました。



各ユニットに洗濯機2台、除湿器1台を設置